

## businessの多義的意味認識について —— 多義の意味的有契性に対する認知的考察 ——

松 中 完 二

### 0. はじめに

本論文は、多義語の意味の捉え方についての一試論である。ここでは英語のbusinessを対象に、その概念部分と多義的意味認識の原理について、認知意味論の視点から解明する。

認知意味論においては、語の多義構造が語の内部構造よりも、むしろ我々の心内における認識作用にあることに重点が置かれるが、語の中心的な意味認識をプロトタイプとして設定し、中心から周辺への意味の派生、拡張現象を捉えるにあたっては、田中茂範(1990)が以下に指摘するように、その派生、拡張といった意味の有契性を支える原理の解明も必要となる。

“プロトタイプ理論を語彙意味論に応用するには、語彙項目は $n$ 個の語義(イグゼンプラ)を持つという点を前提としなければならない。つまり、燕、雀、鳥が「鳥」というカテゴリを形成するのと同様に、 $n$ 個の語義がある語彙カテゴリを形成するという前提を立てる必要がある。この点につき、Lakoff(1987:18-18)は、この前提が成立するという立場に立ち、たとえば‘healthy’という単語はA、B、Cという語義を持ち、それらがカテゴリを形成するとみなすことが可能であると述べている。その場合、Aが‘healthy’を形成する語義の中で中心的な成員(central member)であり、BとCはそこから展開した語義であり、そして、AからBあるいはCへの語義の展開を可能にするのはメタファー(metaphor/metonymy)である、という点も指摘している。

Lakoff(1987)の指摘が正しいとすれば、プロトタイプ理論は、多義語の意味論にも応用できるという可能性をもつ。Palermo(1982:346)は、やや比喩的な言い方ではあるが、プロトタイプ意味論から類推される多義の構造を、次のような表現であらわしている。

The structural relations among exemplars of an abstract category may be conceived metaphorically as spherically shaped. Prototypic exemplars are located at the core of the sphere whereas poor exemplars are towards the surface or periphery of the spherical semantic space.

(大意：抽象的カテゴリのイグゼンプラ間にみられる構造的関係は比喩的に言えば、球形のかたちとして観念化することができよう。その場合、プロトタイプのイグゼンプラは球の中心に位置しており、イグゼンプラとして典型的でないものはその球状の意味空間の表面あるいは周辺の方に在る、と考えられる。)

同様の見解は、すでにRosch (1973) にもみられる。

...categories are composed of 'core sense' which consists of the 'clearest cases' (best examples) of the category, 'surrounded' by other category members of decreasing similarity to that core sense.

(大意：カテゴリは、最もはっきりしたケース（最良のイグゼンプラ）から成るコア・ミーニングを〔中心に〕持ち、他のケースがコア・ミーニングとの類似性によって、その回りを取り巻いているという構造を持つ、と考えることができよう。)

しかし、PalermoもRoschも多義の意味分析を念頭に置いて議論しているわけではない。我々に直接に関連のあるプロトタイプ意味論の主張を行ったのは、Miller (1978) がおそらく最初の一人であろう。

This approach requires two assumptions: (a) it is possible to identify central or core senses of polysemous words, and (b) it is possible to formulate construal rules governing the ways a core sense can be extended to provide other senses. (p.102)

(大意：このアプローチは2つの前提を必要とする。そのひとつは、多義語の中心のあるいはコア的語義を同定できること。もうひとつはコア的語義が展開し他の語義を提供するやり方を統制する解釈的規則を公式化することができることである。)

ここで注意すべき点は、Palermo、RoschおよびMillerは、コアとプロトタイプを正確に区別していない、ということである。コアは、あくまでも文脈に依存しない意味記述であるのに対して、プロトタイプはなんらかのかたちで文脈依存している。しかし、Palermo、Rosch、Millerが共通して主張している点は明確である。すなわち、 $n$  個の語義を持つ語彙項目があった場合、我々はその語義群の中にプロトタイプのなものとそうでないものを認めることができ、しかも、プロトタイプ的でない語義はプロトタイプ（的な語義）を軸に（メタファーの原理により）広がっていくということである。

ここで引き出される意味論モデルから多義語の語義構造を想定すると、次のようになる。つまり、 $n$  個の語義は、より少ない数のグループに分かれ、さらに各グループ内にプロトタイプのなものとそうでないものが分かれるが、その構造はプロトタイプのなものを中心にすえ、そこから他の語義が広がるというイメージである。”

(田中茂範、1990：97-99.)

また、プロトタイプの認識は、心的なイメージによる意味の把握によるものであり、このことについて田中 (1990) は次のように述べる。

“語彙項目は理論的にはプロトタイプをとることもあるし、複数のプロトタイプをもつこともある。基本動詞の場合には、複数のプロトタイプから成り立つ場合が多いと考えてもよいだろう。たとえば、ある単語からの連想喚起力を基準にプロトタイプを操作定義するとしよう。callの場合、〈叫ぶ〉と〈電話する〉の2つが直ちに連想される。bearにおいては〈耐える〉と〈産む〉の2つの語義が連想される。そこで単純に考えると、callもbearも2つのプロトタイプの候補を有するといえる。

しかし、プロトタイプが何であるかを決定することはそんなに容易ではない。たとえば、break the vaseとbreak the traditionを比較すると、直感的に前者がbreakの用法としてのプロトタイプ性が高いといえるかもしれない。しかし、ここでの私た

ちの直感的判断の基準は「イメージの具体性」である。つまり、break the vaseは物理的な行為であり、イメージとしては具体的だが、break the traditionは社会的な行為であり、それが喚起するイメージはbreak the vaseほど具体的ではない。しかし、母国語話者にとって、breakを刺激とした場合、どの用法が連想されやすいかという「連想喚起力」を基準にすると、break the traditionもプロトタイプ性の高い項目とみなされるかもしれない、という可能性も考えなければならない。同様にbreak one's heartがあらわすことがらは心理現象といえるが、英語話者にとってbreakから容易に連想される項目であるかもしれない。

ここでは、言語学的な基準に基づく「理論的プロトタイプ」と心理学的な基準に基づく「心理的プロトタイプ」を区別する必要がある、ということが示唆されている。言語学的基準の代表は「具体性」であり、物理的現象を軸とする立場である。言語学でみられる有標／無標の研究などは理論的プロトタイプと同一線上にあると考えることができよう。

一方、心理学的な基準とは、心理的に何が顕著であるか（連想喚起力）を問題にし、それは、年齢、文化、性別などの変数によって異なる。しかし、同時に、心理学分野でのプロトタイプ研究が示しているように、ある集団の意識を測定してみると意義ある安定値が得られるものである。[中 略]

言語学的な基準によるプロトタイプは、何らかの理論的な基準にしたがってプロトタイプの決定を行う、と上で述べた。よく採用される理論的基準は〈イメージの具体性〉であり、語の具体的な意味と抽象的な意味を区別できる、というのがその前提である。この考えでは、動作動詞のプロトタイプは具体的な（観察できる）動作を表す。たとえば、この基準から次の3つのtakeの用例をみてみよう。

- a) John *took* a plate from his table.
- b) If you *take* 3 from 8, then you get five.
- c) This passage is *taken* from George Lakoff's book.

プロトタイプを決める基準を〈具体性〉〈観察可能性〉と操作定義すると、(a)がその条件を満たし、プロトタイプ項目と判断される。残りの2つの例は、直接観察できない心的な行為であることから、プロトタイプ度が低い。しかし、これらの3つの用例には意味的共通項があり、プロトタイプ項目から連想されるイメージが抽象的な〈数操作〉や〈引用〉に投影されている。また、John kept a secret.とJohn kept a secret document in his safety box.の比較においても同様のことがいえる。つまり、両者はイメージ的につながる。” (田中茂範、1990: 100-102.)

本論文は、こうしたプロトタイプ理論を英語のbusinessに当てはめ、その多義構造を明確化しようと試みるものである。

## 1. 研究目標

businessは名詞で「仕事」という意味認識が顕著である。その一方で、「関係」、「本分」、「権利」等といった意味認識をも有する。これらの意味認識は、一見、無関係な意味構造に見え、前者と後者の意味認識には意味的な関連性は何ら存在しないようにすら思われ

る<sup>1)</sup>。しかし本稿では、多くの英々、英和辞典におけるbusinessの意味記述がそうであるように<sup>2)</sup>、businessのこれら広範な意味を同音異義とは捉えず、多義であると捉える。そしてそれが多義であると主張するためには、これらの広範かつ異なる意味が、意味的な有契性によって互いに関連付けられていることを証明する必要に迫られる。

そして多義について論じる際に、大きな問題となるのは以下の三点である。

- ①各語義の設定と記述。
- ②多義を生む中心的な認識の設定と記述。
- ③各語義の意味的連関性の分析。

本稿では、①の問題に対して、主に映画から採集した用例を基に、businessの多義における各語義の設定を試みる。そして②の問題に対してLangacker (1987,1988<sup>a</sup>,1988<sup>b</sup>) におけるネットワーク・モデルによる多義認識の原理を適用し、③の各語義の意味的連関性にメトニミーが大きく関与していることを指摘する。それを基に、Langacker (1987,1988<sup>a</sup>,1988<sup>b</sup>) におけるネットワーク・モデルの不備について指摘し、語の多義的意味認識の原理について認知的視点から明確化する。

また、多義認識の原理にネットワーク・モデルを適用するという性質上、本稿では多義が中心的な共通認識からの派生関係によって形成されるという立場に立つ。それゆえ本稿では、businessの広範な多義的派生関係は何かしら単義的ないしは一義的な中心的な概念認識の共有によって、互いに関連付けられていると考える。ここではその中心的な概念認識を便宜的に「中心的概念」と呼び表し、それを基に形成されるbusinessの多義構造と多義的意味認識の原理について考察する。

## 2. 先行研究

### 2.1 多義の捉え方

多義が一から他が派生する意味認識の現象であるという点では、異論の余地はあるまい。ただし、その派生関係をどのように捉えるかという点で、諸説緒論によって異なりが見られる。ただし、鳥瞰的に見れば、多義に対するアプローチの性質は、次の二つに大別されよう。

一つは、一つの音韻形式が一つ以上の識別可能な意味を有するならば、それぞれの意味は他の意味との関係とは無関係に個々に特徴付けられた存在であるという考え方である<sup>3)</sup>。この立場は、特にKempson (1977) における「不変の意味的価値 (constant semantic

value)』<sup>4)</sup>という考え方に代表される。この立場に立つ者として、Jakobson (1936)、Leech (1974)、Kempson (1977)、Lyons (1977)、Searle (1983)、Bierwisch (1983)、Ruhl (1989)、Wunderlich (1991)、Bierwisch & Schreuder (1992) 等が挙げられる。

もう一つは、多義認識が一義的ないしは単義的な共通認識に還元され得るといったもので、往々にして認知的アプローチと呼ばれるものである。この立場を取る者として、Austin (1961)、Bolinger (1965)、Sampson (1980)、Haiman (1980)、Jackendoff (1983, 1990)、Geeraerts (1985)、Lakoff (1987)、Langacker (1987)、田中茂範 (1987, 1990)、Cruse (1986, 1990)、Brugman (1988)、Lindner (1982)、Norving & Lakoff (1987)、Lehre (1990)、国広哲弥 (1998) 等が挙げられる。そこでは、語の多義構造は、中心にプロトタイプとしての何らかの共通認識が存在し、それが周辺的に意味の拡張を引き起こし、メタファーやメトニミーといった認知原理によって多義を形成するという結果が得られている<sup>5)</sup>。本稿でも、多義認識に対して後者の立場を取る。

## 2・2 Langackerのネットワーク・モデル

認知意味論では、多義について人間の認知構造からその多義の構図を解き明かそうとする。例えばLakoff (1987)、Taylor (1995) らは、多義を構成するネットワーク構造から多義構造の原理を説く。またそこではBrugman (1981) やLindner (1982) によるout、upの意味構造の研究、Lakoff (1987) によるoverの多義研究や、Norving & Lakoff (1987) によるtakeの語彙的ネットワーク関係の研究等が顕著である。

こうした中、特にLangacker (1987) の提案した「ネットワーク・モデル」という枠組みは、最も有効に語の多義性を説明付けることが可能な枠組みである。「ネットワーク・モデル」とは、意味認識が中心的なモデルから、徐々に周辺的なモデルへと派生、拡張が行なわれ、それが多義を形成するという考え方である。認知意味論で共通して取られる語の多義性に関する立場は、語の認識には成員間に成員としての帰属度の高低と、中心・周辺の別があり、カテゴリーには明確な境界線は存在しないというものである。ネットワーク・モデルの適用は、語の意味研究に対して、文中における語とそこで生成される語の多義性を有効に説明付ける。

しかしながら、こうした認知的視点によるbusinessの多義的意味認識についての研究は未だ見られない。

なお、本稿で言うメタファー、メトニミーとは、それぞれ「隠喩」、「換喩」に当るもので、その定義は以下の初山 (1997: 31/2001: 34) に従う。

メタファー：二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

メトニミー：二つの事物の外界における隣接性、あるいは二つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。 —— 初山（1997：31／2001：34）

## 2・3 辞書における意味記述

businessの意味認識を見るために、英々辞典、英和辞典における意味記述を参考にする。ここでは*THE NEW SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY* (CLARENDON PRESS、1993年)、『ランダムハウス英和大辞典 第2版』（小学館、1994年）の二冊を使用する。

### *THE NEW SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY*

#### **business**

I The state of being busy (cf. BUSYNESS) .

1 Anxiety; distress, uneasiness. OE-LI6.

2 The state of being busily engaged; activity; application, industry; diligent labour. ME-EI8.

3 Eagerness; importunity; officiousness. LME-LI6.

4 Attention, care; observance. LME-MI6.

5 Trouble, difficulty; ado; commotion. LME-LI7.

II The object of concern or activity.

6 The object of serious effort; an aim. LME-MI6

7 An appointed task; a duty, a province; spec. a particular errand, a cause of coming. LME.

8 Action demanding time and labour; serious work. LME.

9 A habitual occupation, a profession, a trade. LI5.

10 A thing that concerns one; a matter in which one may take part. EI6.

11 A particular matter requiring attention; a piece of work; a job; an agenda. MI6.

bA topic, a subject. Only in I7.

cA difficult matter. *colloq.* MI9.

- 12 *gen.* An affair; a concern, a process; a matter; a structure; *slang* all that is available. *Usu. derog.* EI7.
- 13 Dealings, intercourse, (*with*). EI7.
- 14 *Theatr.* Action on stage (as opp. to dialogue). LI7.
- 15 Trade; commercial transactions or engagements; total bookings, receipts, etc.
- 16 A commercial house, a firm. LI9. [後 略]

『ランダムハウス英和大辞典 第2版』(以下、*RHD2(J)*)で表す)

### business

- n.1** (1)職業, 仕事, 家業, 商売: the ~ of a carpenter 大工職 / conduct a banking ~ 銀行業を営む / make a ~ out of photography 写真を業とする / follow the ~ of ... の職業に従事する / What line of ~ is he in? 彼はどんな職業に就いているのか / His ~ is poultry farming. 彼の職業は養鶏業だ / The ~ of America is ~. アメリカの商売は商売だ <Calvin Coolidge, 1925>. (2)事務, 実務, 業務, 営業 [中 略]
- 2** 商業, 商取引, 商売, 売買, 商況, 景気: slump in ~ 商況不振, 不景気 / domestic [foreign] ~ 国内 [外国] 取引 / carry on a ~ in tea with a person 人と茶の取引をする / do good ~ いい商売をする, もうける / *Business* is brisk [dull]. 取引が活発 [低調] である, 景気がよい [悪い] / *Business* is at a low ebb [at a standstill]. 商売が不振である [ぱったり止まった] / How's ~? 景気はどうだい.
- 3** 事業家, 商人; 法人, 企業, 会社, 団体; 店, 商社, 商店; 工場: a flourishing ~ 景気のいい店 [会社] / close a ~ 店をたたむ, 廃業する / open [or set up] a ~ 開店 [開業] する / run a ~ 企業 [店] を経営する.
- 4** 取引高; ひいき, 引き立て (patronage): give one's ~ to a store ある店をひいきにする / draw ~ to a store 店に顧客を引きつける / That store has a large ~. その店は手広く商売している.
- 5** (自分の) やるべきこと, 務め, 職務, 本分 (duty); (扱うべき) 重要な

- 事柄；議事（日程）：know one's ~ 自分のすべきことを心得ている，よけいな手出しをしない／She made it her ~ to find out other's faults. 彼女は他人のあら捜しを事としていた／Everybody's ~ is nobody's ~. 皆の務めは誰の務めでもなくなる；連帯責任は無責任.
- 6 干渉すべきこと，かかわるべき事柄；（干渉する）権利：That isn't any [That is none] of your ~. [=Mind your own ~.] お前の知ったことではない；いらぬ干渉をするな／I'm just minding my own ~. ((話))自分のことをしっかりとやっているだけだ（▶様子を尋ねられての答え；Mind your own ~.と同じ意になる）／Get [or Keep] your nose out of my ~. いらぬおせっかいをやくな.
- 7 ((時に軽蔑的)) (一般に) 事，出来事 (affair)；厄介な [嫌な] こと；もくろみ：an awkward ~ 厄介なこと／What a ~! 困ったことだ／She was exasperated by the whole ~. そのことのすべてに彼女はひどく腹を立てた.
- 8 (課せられた) 仕事，用事；雑用，こまごました仕事 (core)：apply oneself seriously to one's ~ 自分の仕事に本気で取り組む／go to New York on public ~ 公用でニューヨークへ行く／No admittance except on ~. ((掲示)) 無用の者入るべからず／Have you any ~ with me? 私に何かご用ですか.
- 9 ((話)) (漠然と表現された) 分野，方面：the most knowledgeable person in that ~ その筋 [方面] では最も知られた人物.
- 10 [演劇] 所作，仕草，(特に心理表現，状況描写，劇的效果などのために用いる) 比較的小さい所作 (piece of business, stage business).
- 11 ((婉曲的)) うんこ，(特にペットの) 糞 (excrement).
- 12 ((俗)) 売春 (prostitution).
- 13 ((the~)) ((米俗)) 麻薬注射用の器具.
- 14 ((侮辱的)) 建物，建造物. [後 略]

英語のbusinessの有する概念について、THE NEW SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY ではその根幹となる意味概念を二つに大別している。すなわち、“I The



state of being busy (忙しい様、状態)”と、“Ⅱ The object of concern or activity (心的、肉体的に関わっている対象物)”といったものである。特に、Ⅱについては、漠然と広く一般の事物に対して使用される。

一方、*RHD2(J)*では、1、2、3、8の訳語が*THE NEW SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY*のⅠの定義を基に創出されたものとなっており、同英々辞典のⅡの定義を基に創出された訳語が*RHD2(J)*における8を除いた残りの4～14までとなっている。しかしながらこれは、雑然と意味を羅列したにすぎない感が払拭し得ない記述であり、businessの概念とそこから派生する多義的意味認識の指針については、未だ不十分なものであると言わざるを得ない。そこで、採集用例を基に考察をすすめる。

### 3. businessの使用例

ここで、実際の発話資料から採集したbusinessの多義的使用を列挙する。

#### 3・1 「主体と対象との職業的な関わり」といった概念での使用

##### 3・1・1 仕事・事業・業務・実務・商業

- (1) “I am a procecurator. I’m a part of the *business* of accusing, judging and punishing.”  
「私は検事だ。私の仕事は裁判で人を起訴し、審理し、そして処罰することである。」  
\*◇◇\*映画『推定無罪』
- (2) “Where’s the big man?”  
“Big man’s right over there, taking care of some *business*. Why don’t you hang back for a second or two, you know.”  
「ボスはどこだ？」  
「ボスなら向こうでちょっとした仕事をしているとことだ。すこしばかりここで待てな。」  
\*◇◇\*映画『パルプ・フィクション』
- (3) “And all the really smart ones come from New York, don’t they? Some of the boys might start throwing their *business* to Jack instead of old Martin Luther Werthan. I don’t know, maybe it wouldn’t happen. Sometimes that’s the way things work.”  
「ニューヨーク出の奴らはみんな頭がいいよ、そう思わないかい？仕事がジャックの所に流れ始めて、このマーティン・ルーサー・ワーザン社には回ってこなくなる。思い過しかもしれないけれど、世の中なんてそんなもんさ。」  
\*◇◇\*映画『ドライビング・ミス・デージー』
- (4) “She was made for the *business*. Tough as nails.”  
「彼女はこの仕事をするために生まれてきたようなものだ。とってもタフだし。」  
\*◇◇\*映画『ダイ・ハード』

- (5) "I would like to sink my teeth into your...little bottom."  
 "Look, our relationship is strictly *business*! You got that?!"  
 「君のお尻を噛んじゃいたい。」  
 「いいこと、私たちの関係は仕事のみよ! 分かったわね!」 \*◇◇\*映画『マネキン』
- (6) "I still have to conduct *business* in this town."  
 "I see. Werthan Bag will go out of business if you attend the King dinner."  
 「僕はまだこの町で仕事を続けなきゃなくなっているんだ。」  
 「分かったわ。キング牧師のディナーに出席したらワーザン・バッグ社は倒産するってことなのね。」 \*◇◇\*映画『ドライビング・ミス・デイジー』
- (7) "When we would pull up in front of a house where he meant to do business, he would say, Now, you slide down in the seat and be quiet like a good girl. Folks don't like to be bothered with children when they do *business*."  
 「商売をするためにどこかの家の前に車を止めると、彼は決まって“さあさあ、シートに寝そべっていい子にしているんだよ。大人は仕事をするときに子供に邪魔されたくないんだ”と言ったもんだった。」  
 \*◇◇\*Joe David Brown著, *PAPER MOON*, p.53.
- (8) "Oh, you object to the kind of *business* I do, huh?"  
 「そうか、私のやっている仕事が気に入らないんだな。」  
 \*◇◇\*映画『カサブランカ』
- (9) "Your *business* is politics. Mine is running a saloon."  
 「皆さんは政治がお仕事。私の仕事は酒場の経営です。」  
 \*◇◇\*映画『カサブランカ』
- (10) "A new product has been found. Something of use to the world. So a new industry moves into an undeveloped area. Factories go up. Machines are brought in. A harbor is dug, and you're in *business*."  
 「ある新しい製品が発見される。それは世の中の役に立つものだ。そうすると新しい産業がまだ未開発の分野に入り込んでくる。工場が建ち、機械が運び込まれ、港が掘られ、そして君は事業に手を染めるようになる。」  
 \*◇◇\*映画『麗しのサブリナ』
- (11) "It looks like your *business* is really successful these days."  
 "We're doing pretty good now, but when we began four years ago, I didn't think we'd ever get on our feet."  
 「最近、おたくの事業は相当順調なようですね。」  
 「現在は、かなりうまくいっています。しかし、4年前に始めたときは、自力でやっ

ていけるようになるなんて、考えもしませんでしたよ。」

\*◇◇\*松本道弘編『Give Get辞典』p.141.

- (12) “They set up legitimate *businesses* with dirty money from drugs, gambling, prostitution.”

「奴らは麻薬、ギャンブル、売春で得た汚い金で合法的な事業を興したんだ。」

\*◇◇\*映画『ザ・ファーム 法律事務所』

- (13) “He’s keeping himself to himself, that one.”

“Well, then, it’s one of two things. Enterprise or love.”

“It isn’t love, rest assured of that.”

“Then you’re a man of *business*, like myself.”

「その若者は黙ったままで、何も喋ろうとしないんです。」

「そうか、ならばその原因は二つに一つだ。仕事の悩みか恋の悩みかのどちらかだ。」

「恋の悩みなんかじゃなさそうでしたよ。」

「それじゃあ実業家だな、ワシと同じだ。」

\*◇◇\*映画『遙かなる大地へ』

- (14) “So, I hear your *business* has really taken off.”

「商売が順調だそうだね。」

\*◇◇\*映画『赤ちゃんはトップレディがお好き』

- (15) “The war is the biggest *business* in America, worth 80 billion dollars a year.”

「アメリカでは戦争は、年間800億ドルにも相当する最大の商売なのです。」

\*◇◇\*映画『JFK』

- (16) “Real nice *business* he’s got, huh?”

“What’s that?”

“Selling naked pictures of little kids on his computer.”

「まったくいい商売をしてやがるよな。」

「何の商売だ？」

「インターネットで子供の裸の写真を販売してるんだ。」

\*◇◇\*映画『Xファイル ザ・ムービー』

- (17) “They make money being in *business* with me.”

「連中は俺と商売をして金を儲けているんだ。」

\*◇◇\*映画『ザ・ファーム 法律事務所』

- (18) “Secret to this *business*, son, is to get a good pace going for yourself. Now, nobody likes to admit it. Medicine’s a volume *business*.”

「この商売の秘訣はだな、君、自分の患者を沢山持つことだよ。誰も認めたがらないがね、医療とは数をこなしてなんぼの商売だよ。」

\*◇◇\*映画『ドク・ハリウッド』

- (19) "When we would pull up in front of a house where he meant to do *business*, he would say, Now, you slide down in the seat and be quiet like a good girl. Folks don't like to be bothered with children when they do business."

「商売をするためにどこかの家の前に車を止めると、彼は決まって“さあさあ、シートに寝そべっていい子にしているんだよ。大人は仕事をするときに子供に邪魔されたくないんだ”と言ったもんだった。」

\*◇◇\* Joe David Brown 著, *PAPER MOON*, p.53.

- (20) "How's the jewelry *business*, Berger?"

"Uh, not so good."

「宝石の方の商売はどうだい、バーガー？」

「あんまりよくはないね。」

\*◇◇\* 映画『カサブランカ』

- (21) "I must say I'm sorry to be losing your *business*."

「お客様との取り引きを失ってしまうのは、残念と言うより他にございません。」

\*◇◇\* 映画『ショーシャンクの空に』

- (22) "We are back in *business* on Blustar."

「ブルースター社との取り引きの件に話を戻そう。」

\*◇◇\* 映画『ウォール街』

- (23) "What's the thing Serrano's most afraid of?"

"Getting knocked off by his own people. What I know about his financial transactions would not only put him away, but every mob guy he ever did *business* with. That's why he wants to kill me."

「セラノが一番恐れていることは何だ？」

「商売仲間に寝首をかかれることさ。俺は奴の金の動きを知っている。そこから奴だけでなく奴の取り引き相手をもパクれるんだ。だから奴はこの俺を消したがつているんだ。」

\*◇◇\* 映画『ミッドナイト・ラン』

- (24) "Hey, business is *business*. You use a gun, I use a fountain pen. What's the difference?"

「おいおい、取り引きは取り引きだ。君達は銃を使い、僕達は万年筆を使う。同じことじゃないか。」

\*◇◇\* 映画『ダイ・ハード』

- (25) "I thought I would go on a *business* trip, while you stay here to keep up appearances."

「私は出張で出掛けるが、その間も君はここに残って世間体をつくらしてくれ。」

\*◇◇\* 映画『フリントストーン』

- (26) "Listen, whatever I did was my business, not yours!"

"No, you mean it was company *business*."

"That's right! And that's all it was *business*."

「いいこと、私が何をしようとあなたには関係ないわ！」

「いいや、何もかもビジネスだったんだろう。」

「そうよ！あなたとの関係も全てビジネスよ。」 \*◇◇\*映画『摩天楼はバラ色に』

- (27) “U.S. Commerce Secretary Ron Brown died after a U.S. military plane carrying him and 32 others crashed into a mountain south of Dubrovnik, Croatia. All passengers and crew members aboard were killed in the crash. The U.S. Air Force T-43 took off from Tuzla, Bosnia, and was approaching the airport in Dubrovnik when the accident occurred. Brown was traveling with U.S. *business* executives exploring *business* possibilities in the Balkans.”

「ロン・ブラウン米商務長官ほか32名を乗せた米軍機が、クロアチアのドブロクニクの南の山中で墜落し、同長官は死亡した。この墜落で乗員乗客は全員死亡。米空軍のT-43型輸送機は、ボスニアのツツラを発ち、事故当時、ドブロクニクの空港へ向けて着陸態勢に入っていた。同長官は米国の企業幹部と共に、ビジネス・チャンスを探るためにバルカン地域を訪問していた。」

\*◇◇\*『時事英語研究』1996年6月号.

- (28) “What is the most serious consumer issue facing the country now? Without a doubt, it's the role of *business* money in elections. Until something is done about the political influence of very narrowly focused *business* groups such as PACs—facturers—consumers are not going to get any kind of an even shake. That's the problem.”

「今日、国家が直面している、最も深刻な消費問題は何か？疑いなく、選挙における企業献金である。ごく限られた企業グループ、例えばPAC（政治運動委員会）などであるが—この委員会が、石油業者であれ、自動車販売業者であれ、あるいは朝食のコーンフレークなどのメーカーであろうと—彼らの持つ政界への影響力を何とかしない限り、一般の消費者は公平な扱いを受けられないのである。それこそが問題なのだ。」

\*◇◇\*PEOPLE, 1983年5月2日号.

- (29) “Castro is a successful revolutionary, frightened to American *business* interests in Latin America.”

「カストロの革命は成功し、このことはラテン・アメリカでのアメリカ企業の利益にとって大きな脅威だった。」

\*◇◇\*映画『JFK』

- (30) “Mongoose was pure black ops. It was secretly based in the south campus of Miami's university, which was the largest domestic CIA station. Budgeted annually over hundreds of millions of dollars. 300 agents, 7,000 select Cubans. 50 fake *business* fronts for laundering money.”

「マングース作戦は完璧な秘密工作だった。マイアミ大学のサウスキャンパスに秘密基地を構えていた。そいつはアメリカ国内で最大の規模を誇るCIAの拠点で、年間予算は数百億ドル、局員300人、選りすぐりのキューバ人が7,000人と、マネーロンダリングのための偽装商社が50社、という具合だった。」

\*◇◇\*映画『JFK』

- (31) “Thank you, Wellborn. Thank you, all. I’m deeply grateful to be chosen as nineteen sixty six man of the year by the Atlanta *business* council. An honor which I have seen bestowed on some mighty fine fellas. And one which I never expected would come to me.”

「有難う、ウェルボーン。どうも有難うございます、皆さん。アトランタ商工会議所によりこの私が1966年の顔に選ばれましたことは非常に光栄に存じます。優れた方々に贈られてきた栄誉であり、よもや私なぞが頂けるものとは思っていませんでした。」

\*◇◇\*映画『ドライビング・ミス・デイジー』

- (32) “Alonzo, uh, Jack Walsh, Federal Bureau of Investigation. This is an official *business*. I’m taking this man in… I mean, he’s in my custody. I’m taking him to Los Angeles.”

「僕は連邦捜査局のアロンゾ、いやジャック・ウォルシュです。公務で保護中のこの男をロスまで連行するところなんですよ。」

\*◇◇\*映画『ミッドナイト・ラン』

- (33) “The President was able to attend to some official *business* on Wednesday and continue to be briefed on all areas of national concern.”

「水曜日に公務に就かれた大統領は、国務のあらゆる分野での最新情報を収集されました。」

\*◇◇\*映画『デーヴ』

- (34) “McClane, I want a debrief. I want a debriefing! You got some things to answer for, mister. Ellis’s murder for one thing. Property damage, interfering with police *business*.”

「マクレーン警部、事件についての報告を聞きたい。報告をするんだ。君には答えてもらう必要がある。まず、エリスの殺害。それに器物損壊と公務執行妨害について報告するんだ。」

\*◇◇\*映画『ダイ・ハード』

- (35) “Out of the way! Police *business*! You got it?”

“This isn’t police *business*, Moss. You’re late for a goddamn date. Look, you can’t be yelling ‘police *business*’ to people when it isn’t police *business*.”

“Hey, it’s my business, right? And I’m the police, right?”

「おい！道を開けろ！職務だ！分かったかお前ら！」

「おいおい、これは職務じゃないぞ。あんたが自分のデートに遅れるから車を飛ばしてるだけじゃないか。職務でもないのに“職務だ”なんて市民に怒鳴っちゃいけないよ。」

「そんなこたあ俺の勝手じゃないか。それに事実俺は警官だ、そうだろう。」

\*◇◇\*映画『ハード・ウェイ』

- (36) “I hope you all had a good time last night. But now, it’s back to *business*.”

「昨夜はみんな楽しんでくれたことと思う。しかし今日からはまた任務に戻るぞ。」

\*◇◇\*映画『メンフィス・ベル』

- (37) “Bateman wants his down payment back. They all do. That’s eight though, Charlie!”  
“Eight thousand! I don’t have it.”  
“Look, you gotta pay these people back, or it’s all over. We’re out of *business*. What am I gonna tell ’em?”  
「ベイトマンは手付金を返せと言っています。他の客たちも同様です。全部で8万ドルもの金額ですよ。」  
「8万ドルだって? そんな金はない。」  
「返却しなければ我が社は一貫の終わりです。倒産だ。客に何て言えばいいんですか?」  
\*◇◇\*映画『レインマン』
- (38) “Jack, all right, look, listen to me. I’ll give you four… I’ll give you fifty grand.”  
“Fifty grand? I gotta chase you down for twelve hundred. Forget about it.”  
“No, no, no, no, no, Jack, please, just…”  
“Jack, Jack, nothing, forget about it. What else you got?”  
“God, I ain’t got nothing. This is it. If you don’t find this guy, I’m out of *business*.”  
「ジャック、まあ聞いてくれ。この仕事を引き受けてくれたら4万、いや5万ドル出すよ。」  
「5万ドルだって? いやだね。」  
「頼むからジャック、そんなこと言わないでくれよ、お願いだから…」  
「いいや、結構だね。他に仕事はないのか?」  
「これだけなんだよ。君が引き受けてくれないと破産してしまう。」  
\*◇◇\*映画『ミッドナイト・ラン』
- (39) “I’ll tell you, Dave, I’ve been over this stuff a bunch of times. It just doesn’t add up. Who does these books? I mean, if I ran my *business* this way, I’d be out of *business*.”  
「なあ、デーヴ、この書類を何度も見直したんだが、計算が合わないんだよ。だれがこの帳簿をつけているんだい? こんな帳簿のつけかたをしていたら会社は潰れちゃうぞ。」  
\*◇◇\*映画『デーヴ』
- (40) “What do you know about *business*? Any experience on Wall Street?”  
「君は自動車産業について何か知っているのかい? ウォール街での経験は?」  
\*◇◇\*映画『タッカー』
- (41) “I went into *business* with you for one reason, to make money. That’s all.”  
「お前と組んで自動車産業に身を投じたのは、一つの理由からだ。それはお金儲けのためだ。それだけだ。」  
\*◇◇\*映画『タッカー』
- (42) “The mind is cuttered. You can fake it and be a craftsman and put out paintings if you’re Picasso, or records if you’re a pop singer. And you might get away with it. And the *business* will let you get away with it. And the public will let you get away with it.”  
「人の頭なんて混乱しているもんだ。だから誤魔化すことだって簡単にできる。職人

にだってなれるし、ピカソだったら絵を描くこともできる。歌手ならレコードだって出せるというわけさ。それで世の中、通用するかもしれないんだよ。業界だって取り立てて問題にもしないだろう。大衆にもそれで通用するだろう。」

\*◇◇\* V.Garbarini, B.Cillman, B.Graustark 著, *STRAWBERRY FIELDS FOREVER*, p.231

- (43) “You’ve discovered an untapped market in the food *business*, which is something we all know is pretty tough thing to do.”

「君は食品業界で未開発の市場を見つけ出した。これは誰もが認める通り、なかなか出来ることではないよ。」 \*◇◇\*映画『赤ちゃんはトップレディがお好き』

- (44) “If we don’t get us a sponsor in the next couple of races, my ass is fried. I’m liable to be out of the car *business* altogether.”

「あと2、3のレース中にスポンサーを見つけなければ、俺にはもう残された道がない。カーレースの世界から足を洗うことになるだろう。」

\*◇◇\*映画『デイズ・オブ・サンダー』

- (45) “And there’s nothing in the boxing *business* more commercial than a long shot comeback of a down-on-his-luck, pure Snow White underdog! Now, like your Mark Twain once said, ‘Virture has never been as respectable as money’.”

「不運に見舞われたあわれな負け犬が復活を賭ける、ボクシング興行でこれほどの宣伝はないぜ。マーク・トウェインも言ってるだろ、“美德も金の価値には及ばない”ってな。」 \*◇◇\*映画『ロッキー5』

- (46) “But mounting evidence that Esperanza’s forces violated the neutrality of neighbouring countries made Congress withhold funds, funds which Esperanza’s accused of replacing by going into the lucrative *business* of cocaine smuggling.”

「しかしながら、彼の軍による近隣の中立諸国への侵攻の事実が明らかになったために、多額の賭けになるコカイン密輸にその資金を流用したかどで起訴されたエスペランザに対して、議会はその資金援助を停止しております。」

\*◇◇\*映画『ダイ・ハード2』

- (47) “Ah! Lousy weather, good for *business*.”

「ああ、天気は悪いがかきいれどきではあるな。」

\*◇◇\*映画『評決』

- (48) “So, what did you do before the war? I was in the furniture *business*.”

「それで、戦前は何をやってたんだ？俺は家具屋を営んでたんだ。」

\*◇◇\*映画『メンフィス・ベル』

- (49) “Hey, do you still do any teaching now? Reason I ask is, this may sound crazy, but if you’re still in the *business*, I could really use some help on an exam.”

「ねえ、今でもまだ先生をしているんですか？なぜこんなことを聞くかというと、何



だかとおっぴだと思われるかもしれないけど、もしあなたがまだ教師を続けているんだったら、僕の入試の力になってもらえないかと思って。」

\*◇◇\*映画『顔のない天使』

- (50) “The word genius gets thrown around so frequently in this *business*, but darling, if the shoes fits…”

「天才という言葉は劇壇ではよく使われるけど、デビッド、あなたは本物だわ。」

\*◇◇\*映画『ブロードウェイと銃弾』

- (51) “It’s a dirty *business* we’re in sometimes.”

“Yeah.”

「政治は時に嫌な、醜い面を見せることがあります。」

「そうだね。」

\*◇◇\*映画『デーヴ』

- (52) “Do you know how much trouble you’ve caused? They’ve been on the radio all day. Everyone from Townley to the Governor talking about FBI intimidation. We’re not thugs, Mr. Anderson. We’re gonna do this thing my way!”

“I know. Bureau procedure.”

“And what the hell were you doing at the beauty parlor? If that was Bureau *business*, I wanna know about it. If it wasn’t, I won’t allow it! Do you understand me?”

「あんたのせいで大騒ぎなんだ。タウンリー達みんなが、一日中ラジオでFBIの脅しの件を取り上げている。俺達は暴漢じゃない。あんたにも俺達のやり方に従ってもらいたいだけだ。」

「残念ながらこれが当局の捜査のやり方なもんでね。」

「それに美容院で何をした？あれも局の捜査なのか？じゃなかったら許さないからな！」

\*◇◇\*映画『ミシシッピー・バーニング』

### 3・2 「主体と対象との状況的な関わり」といった概念での使用

#### 3・2・1 介入・介在

- (53) “When you get through with Ann I want to know everything she said.”

“Well, I don’t really think it’s any of your *business*.”

「アンとの話が終ったら彼女が何て言ったか全部教えてほしいんだ。」

「そうだねえ、君には関係ないことだと思うがねえ。」

\*◇◇\*松本道弘編『Give Get辞典』p. 39.

- (54) “Who’s that short gentleman?”

“Not that it’s any of your *business*, but, ah, just leave it at that.”

「あの背の低い男の人はだれ？」

「あなたには関係ないことよ。そうでしょ。」

\*◇◇\*映画『愛と追憶の日々』

(55) "What exactly is the deal between you two, anyway?"

"Never mind. It's none of your *business*."

「彼女とはうまくいってるの？」

「そんなことはどうだっていい。君には関係ないだろ。」

\*◇◇\*映画『インナースペース』

(56) "Off Cavilleri?"

"None of your *business*."

「キャビレリとはどのへんまでいった仲なの？」

「あんたには関係ないでしょ。」

\*◇◇\*映画『ある愛の詩』

(57) "Listen, whatever I did was my *business*, not yours!"

"No, you mean it was company business."

"That's right! And that's all it was business."

「私が何をしようとあなたには関係ないはずよ！」

「いや、何もかもビジネスだったんだろう。」

「そうよ、すべてビジネスよ。」

\*◇◇\*映画『摩天楼はバラ色に』

(58) "Raymond, what you were doing in my room, hmm? Raymond! Raymond! What were you doing in my room?"

"I don't know."

"You don't know what you were doing in my room?"

"There were noises."

"There were noises? Well, those noises are none of your *business*. You understand?"

[中 略] Go to sleep! Go to sleep!"

「レイモンド、あの部屋で何をしていたんだ？レイモンド、レイモンド、俺の部屋で何をしていたのか聞いてるんだ！」

「分からない。」

「分からないだと？」

「音（ここでは性行為中の女性のあえぎ声を指す）が聞こえたんだ。」

「音だって？あの音はあんたには関係のない音だ。分かったか？[中 略] さあ、もう寝るんだ。さっさと寝なよ。」

\*◇◇\*映画『レインマン』

(59) "Stop causing problems, you'll get us all killed! Give'em what you got and get'em out of here."

"Shut the fuck up, fat man. This ain't none of your goddamn *business*."

「これ以上問題を大きくしないでくれ。あんたのせいで俺達が皆殺しになってしまう。犯人たちに金を全て渡して大人しくここから出ていってもらうんだ。」

「うるせえ、このデブ。あんたには関係ないことだ。」

\*◇◇\*映画『パルプ・フィクション』

- (60) “I’ve seen him pick you up, that little pissant! You can’t tell me that he’s satisfying your sexually.”

“Look, that’s none of your *business*.”

“I would like to make it my *business*.”

「君を迎えにきていた奴を見たよ。実にイヤな野郎だ。あんな奴じゃセックスで君を満足させられないだろ。」

「あなたには関係ないことよ。」

「関係したいんだ。」

\*◇◇\*映画『マネキン』

- (61) “You did the Casitas Youth Camp with Louis, didn’t you?”

“Man, why do you keep asking me about Louis? His *business* is his *business*.”

「キャシタス少年院では、ルイスと一緒にだったよな？」

「おっさんよお、何でルイスのことなんか聞くんだよ。あいつのことは関係ないだろ。」

\*◇◇\*映画『L.A.コンフィデンシャル』

- (62) “So, you saved her?”

“Not for long.”

“I’m sorry, it’s none of my *business*.”

「あなたがお母さんを助けたのね。」

「ちょっとばかりね。」

「ごめんなさい。私には関係のないことなのに。」

\*◇◇\*映画『L.A.コンフィデンシャル』

- (63) “What I said is none of your *business*.”

“I will make it my *business*.”

「俺が何と言おうと、君には関係ないじゃないか。」

「じゃあ、関係あるようにしようじゃないか。」

\*◇◇\*映画『カサブランカ』

- (64) “You wait ’till she’s gone, then you steal your own child?”

“Hey, that’s my *business*!”

“Your own child?”

“It isn’t your *business*. It’s my *business*!”

“She’s your wife. She’s your wife!”

“Yeah! She’s crazy!”

“She’s crazy?”

“You saw her! She’s a drunk! Do you think that’s any way of raise someone?”

「彼女が出ていくのを待って子供を連れ出すつもりなんだろ？」

「あんたには関係のないことだ。」

「自分の子供なのに？」

「あんたには関係ない。俺自身の問題だ。」

「彼女はお前の女房だろ。お前の女だぞ。」

「あいつは気が狂ってるんだ！」

「気が狂ってるだと？」

「あんたも見たろう。女房は酔っ払ってるんだ。あれで子供が育てられると思うか。」

\*◇◇\*映画『真実の瞬間』

(65) “But my personal life is my *business*. You stay out of it!”

「私の私生活はあなたには関係ないはずだ。余計な口出しはしないでもらいたい。」

\*◇◇\*映画『スパイ・ゲーム』

(66) “Not that it’s any of my *business*.”

「僕には関係のないことだけど。」

\*◇◇\*映画『ステュアート・リトル』

(67) “Hold it right there, goddamn it.”

“This ain’t your *business*, mister.”

“I’m making it my *business*! Toss the weapon!”

「そこまでだ！動くんじゃない！」

「おい、こいつはあんたには関わり合いのないことだ。」

「関わってるんだよ。銃を捨てろ。」

\*◇◇\*映画『パルプ・フィクション』

(68) “Well, these Arabs don’t care if we kill each other. They’re not gonna interfere in our *business*.”

“It was not I who brought the girl into this business.”

「このアラブ人たちは我々の殺し合いなんかには知らん顔だ。関わり合おうなんてしないんだ。」

「あの御婦人を事件に巻き込んだのは私ではないんだ。」

\*◇◇\*映画『レイダース 失われたアーク』

(69) “Hey, you got caught with blow. That’s your *business*.”

「ヤクを持ってたから捕まったんだろ。自業自得じゃねえか。」

\*◇◇\*映画『ジャッキー・ブラウン』

(70) “What are you doing?”

“It’s none of your fuckin’ *business*.”

「何をしているんだ？」

「大きなお世話だ。」

\*◇◇\*映画『ボディーガード』

(71) “Lay off of him!”

“Mind your own *business*.”

「奴に喧嘩を売るのはよした方がいい。」

「てめえに言われる筋合いはねえよ。」

\*◇◇\*映画『ウエスト・サイド物語』

- (72) "I prefer to keep my *business* to myself, if you please."

「悪いが俺の問題に口出ししないでもらえないかな？」

\*◇◇\*映画『遙かなる大地へ』

- (73) "A lot of people that day were deciding what was private, none of the American people's *business*."

「多くの人々が勝手な決定を下しており、その状態はさながら国民不在だったと言えます。」

\*◇◇\*映画『JKF』

- (74) "Look, it's none of my *business*, but if you like to talk about it."

「立ち入って悪いけど、話を聞かせてもらえないかな？」

\*◇◇\*映画『雲の中で散歩』

- (75) "The woman you were just doing *business* with..."

"Yeah?"

"What did she want? I mean, did it have anything to do with me, or with Sam?"

"Sam? Why no, no."

「先程あなたがお相手をしていた女性ですが…」

「はい、何か？」

「彼女はどんな用件で？その、つまり、彼女があなたと話していた内容は、私や私の恋人のサムと何か関係があるのでは？」

「サムですって？いえいえ、そんなことはないですよ。」

\*◇◇\*映画『ゴースト ニューヨークの幻』

- (76) "You are fixing to ruin it."

"What are you talking about?"

"Well, you got the chicken too close together there. And the fire is way too high."

"Mind your *business*."

「そんな料理の仕方じゃ駄目ですよ、奥さん。」

「何が？」

「チキンを火に近付けすぎですよ。それに火だって強すぎる。」

「放つといってちょうだい。」

\*◇◇\*映画『ドライビング・ミス・デイジー』

- (77) "Shannon! Stop this! Where is your dignity, woman?"

"You mind your *business*, Joseph!"

「シャノン、やめろ！はしたないぞ！」

「私のことは放つといってよ、ジョセフ。」

\*◇◇\*映画『遙かなる大地へ』

- (78) "I'm doing my courses by correspondence, Rachel."

"With all the work you have to do, teaching over at Carmody and looking after Green Gables? Marilla, talk some sense to the girl."

“Mind your own *business* for once Rachel, and leave her alone. Ann thrives on studying.”

「私は通信教育で勉強を続けるつもりよ。」

「カーモディーで教えてグリーン・ゲーブルの面倒も見ながら勉強を続けるですって？ねえ、マリラ、彼女に何とか言ってあげてちょうだい。」

「一度でいいから彼女を放っておいてあげたら、レイチェル？アンは勉強が生き甲斐なんだから。」

\*◇◇\*映画『赤毛のアン』

(79) “Well?”

“Well, what?”

“Have you made up Georg’s mind yet? Do I hear wedding bells?”

“Peeling madly.”

“Marvelous!”

“But not necessarily for me.”

“What kind of talk’s that?”

“That is none-of-your-*business*-talk, Max. I’m terribly fond of Georg, and I will not have you toying with us.”

「で、どんな感じだい？」

「どんな感じって、何が？」

「ゲオルグをその気にさせたかってことだよ。近いうちにウェディング・ベルを聞くことはできそうかい？」

「可能性は大きいわね。」

「そいつはよかった。」

「でも、彼の相手が必ずしも私ってことにはならないかもしれないわよ。」

「それはまたどういうことだい？」

「もう放つってよ、マックス。私はゲオルグのことが大好きよ。だからあなたに私たち二人のことを掻き回されたくないの。」

\*◇◇\*映画『サウンド・オブ・ミュージック』

(80) “Dufresne, if you want to indulge this fantasy, that’s your *business*. Don’t make it mine.”

「デュフレーン、こんな夢物語に夢中になるのはお前の勝手だ。だが私を巻き込むな。」

\*◇◇\*映画『ショーシャンクの空に』

(81) “All I want in exchange for my service is the right to hunt one of the tyrannosaurus. A male, a buck only. How and why are my *business*.”

「今回の仕事の報酬は、ティラノサウルス1頭を捕獲する権利を俺に与えることだ。ティラノサウルスはオスを1頭だけでいい。その方法と理由については聞かないでくれ。」

\*◇◇\*映画『ロスト・ワールド』

(82) “Now what are a couple of Kewpie dolls like you doing in a place like this?”

“Minding our *business*.”

「君たちみたいなカワイコちゃんがこんな所で何してるんだい？」

「私たちのことは放つといてよ。」

\*◇◇\*映画『テルマ&ルイーズ』

(83) “To visit Baroness Schraeder again.”

“Mind your own *business*.”

「またシュレーダ男爵夫人の所に行くの？」

「余計なこと言うなよ。」

\*◇◇\*映画『サウンド・オブ・ミュージック』

(84) “Gentlemen, I want you to know I’m not gonna let Vietnam go like China did. I’m personally committed and I’m not gonna take one soldier out of there ’til they know we mean *business* in Asia.”

「諸君、私はベトナムに中国と同じ轍を踏ませはしない。心から約束するが、我々が本気であることをアジアの連中に分からせるまでは、一兵たりとも撤退させるつもりはない。」

\*◇◇\*映画『JFK』

### 3・2・2 用件・核心

(85) “All right class, enough fun. Now, let’s get down to *business*.”

「さあ皆さん、お遊びはおしまい。いよいよ本題に入りましょう。」

\*◇◇\*松本道弘編『Give Get辞典』p. 251.

(86) “Let’s get down to *business*.”

「それじゃあ、本題に入ろう。」

\*◇◇\*映画『ウエスト・サイド物語』

(87) “Wel, here, let’s do some *business*.”

「では、早速本題に入りましょう。」

\*◇◇\*映画『評決』

(88) “Now, let’s get down to *business*. We’ve got a tricky situation here.”

「さて、それでは本題に戻ろう。実のところ、我々の置かれている状況は複雑なことになっている。」

\*◇◇\*映画『トータル・リコール』

(89) “Before we start to bore everyone, let’s get back to *business*.”

「皆さんを退屈させる前に、本題に入るとしよう。」

\*◇◇\*映画『交渉人』

(90) “Well, back to *business*.”

「では話を戻しましょう。」

\*◇◇\*映画『摩天楼はバラ色に』

(91) “We got special *business* coming here tonight.”

「今夜、ここで大事な打ち合せがあるんだ。」

\*◇◇\*映画『ウエスト・サイド物語』

(92) “Don’t you have some kind of urgent *business* thousands of miles away from here,

Doctor?"

「ここから随分離れた所で何か緊急の用事でもあるんでしょう、先生。」

\*◇◇\*映画『ドク・ハリウッド』

- (93) "Let's just get this whole *business* over with."

「この件を全て片付けてしまおうじゃないか。」

\*◇◇\*映画『追いつめられて』

- (94) "Oh, uh, excuse me. We're looking for Mary Ann Benedict, please."

"Oh, I'm sorry, but that's not possible."

"Ooh! Look, we've come a long way, and believe me, she's gonna be very happy to see us."

"Well, even so, you're gonna have to write a letter to the Benedict Foundation stating your *business*. I'm sorry. Good day."

「すみません、メアリー・アン・ベネディクトさんを訪ねてきたのですが…」

「あいにくですが、お会いできません。」

「おい、遠くからはるばるやってきたんだ。向こうも会えば大喜びするはずなんだ。」

「だとしても、まずベネディクト財団への用件の手紙を書いて下さい。すみませんが、それでは。」

\*◇◇\*映画『ツインズ』

- (95) "I'm delighted to see you both. Did you have a good night's rest?"

"I slept very well."

"May we proceed with the *business*?"

"With pleasure. Won't you sit down?"

「お二人とも、本日はようこそおいで下さいました。昨夜はよくおやすみになられましたか？」

「とてもよく眠れたよ。」

「それは変ですね。カサブランカでは誰もよく眠れないはずなのですが。」

「用件に入りませんか？」

「いいですよ。どうぞお座り下さい。」

\*◇◇\*映画『カサブランカ』

- (96) "Now, state your *business*."

「さて、用件を言ってごらん。」

\*◇◇\*映画『オズの魔法使い』

- (97) "Well, then, let's get on about our President's *business*, shall we, gentleman?"

「さて、それでは、大統領の用件に入りませんか、お客様。」

\*◇◇\*映画『ワイルド・ワイルド・ウエスト』

### 3・2・3 本分・天分

- (98) "You and Lynette, right back into *business*."

「君もライネットも、すぐにいつもの仕事（ここでは結婚相手探しを指す）に戻るんだ。」



\*◇◇\*映画『愛と青春の旅だち』

- (99) “Oh, Paulie, I wish you’d go talk to her. You know, Adrian don’t like this none. And she started crying and everything. She don’t like me fighting no more.”

“Hey, what’s with this domestic stuff? Attend to your *business*, will ya? Jab that till it hurts, five hundred times without stopping, do you hear me? Five hundred times!”

「頼むよ、ポーリー。うちのカミさんに会って説得してくれ。エイドリアンはボクシングが嫌いなんだ。泣きだしちまってよう。」

「家庭の話はするな。自分の仕事（ここではボクシングを指す）に打ち込め。ジャブをあと500回。いいな、500回だぞ！」

\*◇◇\*映画『ロッキー 2』

- (100) “Uh, Graig, you work a little hard at being hard-ass. What’s the harm in a little party in honor of these guys? They’re special.”

“I have twenty-four crews up there. They are all special to me.”

“Well, that’s a great story, but bologna’s my *business*. I know it when I see it. All you care about is putting planes in the air. Results. Brown-nosing H.Q. The only man in the whole…”

“Come with me!”

「グレイグ、君は少し働き過ぎで頭が固くなってるんじゃないのか。あいつらのためにささやかなパーティーを開いて何が悪い？ 奴らは特別なんだ。」

「24機の隊員が戦っている最中だぞ。私には全員が特別なんだ。」

「そいつはご立派だね。そういうハッタリは俺の専門だ。お見通しだよ。君にとって大切なのは、爆撃機を飛ばすこと。そしてその成果。司令部へのごますり。全部隊の中で自分一人だけ…」

「ちょっと来い。」

\*◇◇\*映画『メンフィス・ベル』

- (101) “I used to make it my *business* to be a mean, ruthless bastard.”

「血も涙もないワルになるのが自分の道だと思っていた。」

\*◇◇\*井上 健編『BABEL翻訳表現辞典』p. 172.

- (102) “A man who ‘knows his own *business*’.”

「いわゆるその道の達人。」

\*◇◇\*研究社『新編・英和活用大辞典』p. 333.

### 3・2・4 権利・義務

- (103) “Get him out of here! Go on! You got no *business* being up here at this level.”

「奴をここから連れ出せ！早くしろ！あんたは今この部屋に入る資格（権利）はない。」

\*◇◇\*映画『ダイ・ハード 2』

- (104) “Now, what *business* in the world you got, dragging this mess out of the house by yourself?”

“Who was here to help me?”

「一体またどういう事情で一人で荷物を運び出したんですか？」

「この家に他に誰か手伝ってくれる人がいるの？」

\*◇◇\*映画『ドライビング・ミス・デイジー』

(105) “What the hell *business* is it of theirs to say that?”

「連中はなんでまたあんな声明を出さなきゃならないんだい？」 \*◇◇\*映画『JFK』

(106) “You had no *business* taking the right of way.”

“You had no *business* to be out here alone, in the dark, without a lantern.”

「あなたが前に飛び出してくるからいけないんだわ。」

「君の方こそ暗い夜道をうろうろしてるのがいけないんだ、しかもランプも持たずに。」

\*◇◇\*映画『続・赤毛のアン』

(107) “Did you ever stop to think that what we saw was simply an experimental plane, like the stealth bomber or this Aurora Project. Doesn’t the government have a right and a responsibility to protect it’s secrets”

“Yes. But at what cost? When does the human cost become too high for the building of a better machine?”

“These are questions we have no *business* asking.”

「私たちが見た物体が必ずしも UFOだとは限らないわ。最新型のステルス戦闘機だって可能性も考えられるし。もしそうなら、政府が秘密にするのは当然だわ。」

「戦闘機のために人名を犠牲にしてもいいのか？」

「それはまた別の問題だわ。」

\*◇◇\*TVドラマ『The X-Files』

### 3・2・5 運動・行為

(108) “That *business* with your tongue, what is that? That is disgusting!”

「あの舌でペロペロやっている行為は何なの？ちょっと下品すぎない？」

\*◇◇\*映画『テルマ&ルイズ』

(109) “What’s all this top secret *business* I’ve been hearing about over at the Pentagon?”

「ペンタゴンのその極秘行動は一体何を意味しているんだ？」

\*◇◇\*映画『追いつめられて』

### 3・2・6 事態・状況

(110) “Well, I’m glad I caught you before you went to the office. I’ve got some very important family *business* to discuss with you. [後 略]”

“[前 略] And what family *business*? My family?”

「君の出勤前に間に合ってよかった。家族のことで大事な話があるんだ。」

「家族のことだって？俺の家族か？」

\*◇◇\*映画『七年目の浮気』

- (111) "Another piece of nasty *business*."

「それからもう一つ嫌なことがあるんだ。」

\*◇◇\*映画『スパイ・ゲーム』

- (112) "You stay right here by the car."

"Yassam."

"And you don't have to go telling everybody my *business*."

"Oh, no, no."

「車のそばでじっとしてなさい。」

「はい、奥さま。」

「それから私の事を人にペラペラ話さないでちょうだいね。」

「はい、分かりました。」

\*◇◇\*映画『ドライビング・ミス・デイジー』

- (113) "It's official *business*. I'm afraid a bit unpleasant, but something I think you ought to see."

「これは職務上の事柄です。少々不愉快かとは思いますが、ぜひ見て頂きたいものがあります。」

\*◇◇\*映画『スパイ・ゲーム』

- (114) "Why didn't you want me to know you were a virgin?"

"Because it's personal *business*. It's my personal private *business*."

"Well, Brian, it doesn't sound like you're doing any *business*."

「どうして童貞だって知られたくなかったの？」

「プライベートな事だからだよ。僕自身の個人的な問題だからさ。」

「別に大した問題じゃないと思うけど。」

\*◇◇\*映画『ブレイクファースト・クラブ』

- (115) "He thinks this country's fine and should go about doing *business* as usual. I just don't feel that way."

「彼はこの国は万事順調でこのままの形で進んでいけば問題はないと思っている。だが私にはそんなふうには思えないんだ。」

\*◇◇\*映画『デーヴ』

- (116) "Fishing is a dangerous *business*."

"Well, it can be."

「釣りは命懸けの仕事ですね。」

「まあ、そういうこともあるね。」

\*◇◇\*映画『ドク・ハリウッド』

- (117) "You son of a bitch. You know, some of the boys are saying if we ain't gonna fight, we could just settle this whole *business* with a little high stakes poker. Wouldn't that be a sight? Bunch of fellas sitting in the middle of this field, drawing cards, huh?"

「おい、野郎ども。誰かが言ってたんだが、殴り合いをしないんだったら、大きく賭けたポーカー勝負で決着をつけたらどうかってな。野原の真ん中で大勢がカード遊

びなんてのは見物だぜ。」

\*◇◇\*映画『ダンス・ウィズ・ウルブズ』

(118) “Ah, you know, lad, that love *business* is a powerful thing.”

「ああ、何とまあ、愛のなりわいとは力強いものなんじゃろうか。」

\*◇◇\*映画『王様の剣』

### 3・2・7 問題・厄介事

(119) “Well, these Arabs don’t care if we kill each other. They’re not gonna interfere in our business.”

“It was not I who brought the girl into this *business*.”

「このアラブ人たちは我々の殺し合いなんかには知らん顔だ。関わり合おうなんてしないんだ。」

「あの御婦人を事件に巻き込んだのは私ではないんだ。」

\*◇◇\*映画『レイダース 失われたアーク』

(120) “Look, I probably shouldn’t say this, but, I’m not sure if you realize how much the other animals are laughing at you for this sheepdog *business*.”

「あのねえ、こんなこと私が口出しすることじゃないのかも知れないけど、この間の牧羊犬の性で、あんたが他の動物たちの間でどれだけ笑い者になっているか、あんた分っているの。」

\*◇◇\*映画『ベイブ』

(121) “When have I inherited this reputation? I have never done *business* with anybody, and Jerry is my witness, that I have ever, ever, ever…. Has that phone ever rang with a complaint about me? Never! Never!”

「いつそんな評判を立てられたんだ？俺は誰ともそんな悪さ（ここでは食い逃げのことを指す）はしたことはないし、嘘だと思ったらジェリーに聞いてみなよ。俺は誰からも支払いのことで文句の電話を受けたことはないぜ。」

\*◇◇\*映画『ミッドナイト・ラン』

(122) “Look, Frank, I know what you’re going through. You’re trying to wipe out some old *business*. I understand that. I do! But not now!”

「おい、フランク。お前がこれから何をやろうとしてるのか俺には丸見えだよ。これまでやってきた悪事を全て揉み消してしまおうって腹だろ。俺には分かるんだ、本当によ。だが今回はそうはいかないぞ。」

\*◇◇\*映画『評決』

(123) “Linus, I want to talk to you.”

“Ask Miss McCardle for an appointment.”

“Don’t give me that appointment *business*. I’m mad. I’m really steamed.”

「ライナス、話がある。」

「マカードル君に面会時間を聞いてくれ。それからにしよう。」

「杓子定規な面会時間なんてどうだっていいだろ！僕は怒っているんだ。カンカンに

怒っているんだからな！」

\*◇◇\*映画『麗しのサブリナ』

(124) “I really got the *business* from the kids in class today.”

“What did they do?”

“They hid a live snake in my desk drawer.”

「今日はクラスの子供たちに悪ふざけされちゃったわ。」

「何をされたんだい？」

「私の机の引き出しに、生きているヘビを隠してたのよ。」

\*◇◇\*松本道弘編『Give Get辞典』p. 298.

(125) “I got the *business*.”

「私はひどい目にあった。」 \*◇◇\*秋澤公二著『アメリカ人は英語で考える』p. 77.

(126) “I gave him *business*.”

「彼をひどい目にあわせた。」 \*◇◇\*秋澤公二著『アメリカ人は英語で考える』p. 77.

## 4. 考察

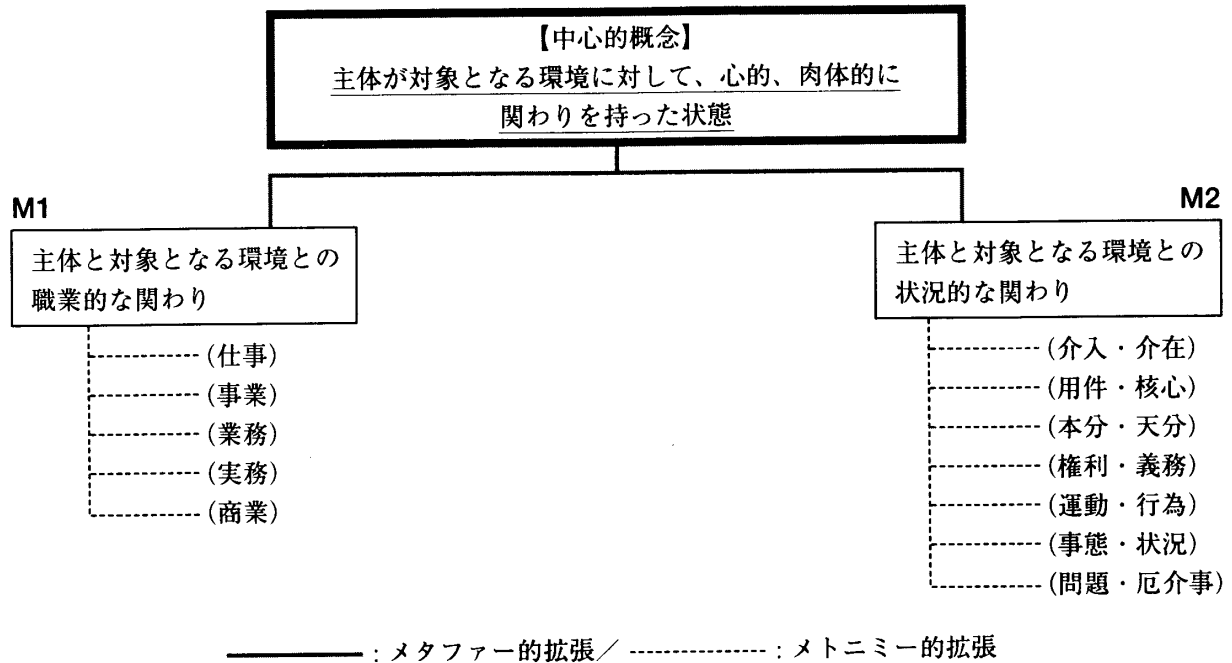
### 4・1 businessの中心的概念と多義的意味認識

先の用例全てに共通し、広範な多義的意味拡張を有契付けるbusinessの中心的概念は、「主体が対象となる環境に対して、心的、肉体的に関わりを持った状態」と記述することが出来よう。この中心的概念を基に、businessは文脈や場面に応じた形で「主体と対象となる環境との職業的な関わり」、「主体と対象となる環境との状況的な関わり」という二つの概念認識を形成する。

この中心的概念から拡張する概念を、ここではその性質に応じて、「主体と対象となる環境との職業的な関わり」、「主体と対象となる環境との状況的な関わり」という二つの枠組みでまとめた。更に「主体と対象となる環境との職業的な関わり」からは“仕事、事業、業務、実務、商業”といった意味認識が、「主体と対象となる環境との状況的な関わり」からは“介入・介在”、“用件・核心”、“本分・天分”、“権利・義務”、“運動・行為”、“事態・状況”、“問題・厄介事”といった意味認識が形成されることが明らかになった。そして、ここではこの二つの概念認識を便宜的にM1とM2で表すことにする。こうしたbusinessの中心的概念とそれを基に形成される多義的意味認識の構造を図示すれば図1のようになる。businessの多義的意味認識は、中心的概念からのメタファー的拡張によるM1、M2への意味認識を基に、そこからの下部的意味認識はメトニミー的要因によって支えられていると考えることが出来る。またそれに伴い、businessの広範な意味認識を同音

異義ではなく、多義として扱っている辞書記述の現実をも解明することにつながる。このことは、Langacker (1987) の「ネットワーク・モデル」では指摘されることのなかった部分である。

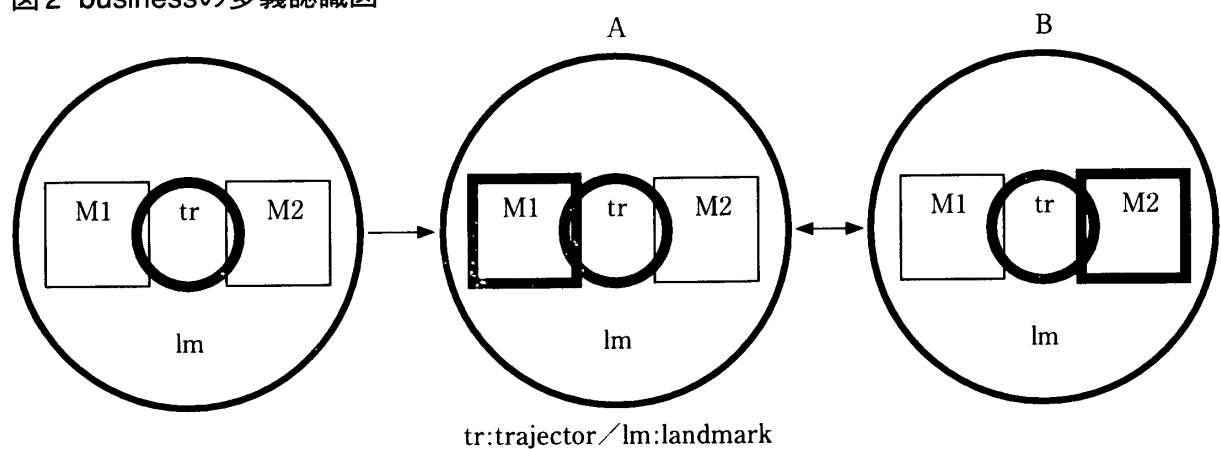
図1 businessの多義構造



#### 4・2 businessの認知構図

先に見たbusinessの多義的意味認識を支える認知構造を図示すれば、図2のような構図が考えられる。

図2 businessの多義認識図



ここでの tr (●) は現在置かれている主体自身を、それを包括する lm (○) は、主体の置かれている背景的環境を表している。一番左の図は、lmの中に、M1とM2の意味認

識が等しく主体と関わる形で並存していることを表している。この状態が右側のAないしはBの状態へと移行した際に、businessの多義的意味認識が成立する。すなわち、trを包括する背景的環境であるlmが場面や文脈ということになるが、そこで主体との職業的な内容への方向性がより強いものである場合、M1が「前景化 (perspectivization)<sup>6)</sup>」され、主体と対象との職業的な関わりといった意味概念を形成する。それがAの図である。一方、trを包括する背景的環境であるlmが主体の置かれている状況的な内容への方向性がより強いものである場合、M2が前景化され、主体と対象との状況的な関わりといった意味概念を形成する。それがBの図である。□ が、前景化されていない状態で意味認識の方向性を与えられていない状態を、■ が前景化されて意味認識の方向付けが与えられた状態を表している。そして、与えられた場面や文脈の中で、M1、M2のそれぞれの下部概念のどれになるかという決定は、そうした場面や文脈、更には我々の持つ百科事典的知識といった背景的要因によって行われる。

このように、businessは「主体が対象となる環境に対して、心的、肉体的に関わりを持った状態」という中心的概念から、lmの中での意味認識の方向性により、M1、M2のどちらか一方が前景化されることによって、主体と対象となる環境との関わり方の性質がどのようなものであるかが規定され、「職業的な関わり」と「状況的な関わり」といった二つの意味概念を形成する。そして前者、後者ともに、そこから下部的概念認識として、様々な多義的意味認識が行われる。そうすると、businessの広範な意味認識は中心的概念を基に、有契的な意味の相関が認められ、共通する意味概念の共有によって成立する多義として捉えられることが実証され得る。

businessの多義認識は、中心的概念を基に、主体と対象となる環境との関わり方の性質に応じたメトニミー的拡張によって、ネットワークを形成しながら、推移、拡張していくことで形成される。しかしながら、Langacker (1987) の「ネットワーク・モデル」では、メトニミーによる意味拡張は位置付けられていない<sup>7)</sup>。また、今回見たような、各語義の派生関係とその実際についても、十分検討されているとは言い難い。このことは、意味の連鎖によるネットワークで多義構造を捉える際に、その末端部分である各語義の意味的連関性を説明付けるのに不備を生じさせる結果を生む。そのため、先の用例文における意味認識の多義性を有効に説明付けることが不可能である。しかしながら、今回のように、多義の各語義を中心的な共通認識からのメタファー的派生として捉え、そこから派生する各語義を互いの性質や機能といった重なり合う成員のメトニミー的拡張と捉えれば、語の多

義的意味派生の関係と、それを基に行われる多義的意味認識の原理が有効に説明付けられる。

このことから、businessの広範な意味認識は多義として捉えることが適切であり、同時にそれは既存の辞書における意味記述との一致という面からも証明される。また、*THE NEW SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY* のbusinessの意味記述に I The state of being busy. と II The object of concern or activity. という二つの意味の上位概念を設けているが、中心的概念という視点から、この二つの意味認識が生じる根本的理由も解明され得る。

## 5. おわりに

本研究では、businessの概念認識とそこから生成される多義的意味認識について、中心的概念という独自の枠組みから明らかにした。そして多義構造を生み出すbusinessの中心的概念は、「主体が対象となる環境に対して、心的、肉体的に関わりを持った状態」と記述出来ることを提言した。

この中心的概念を基に、そこからのメタファー的な拡張により、businessは「主体と対象となる環境との職業的な関わり」、「主体と対象となる環境との状況的な関わり」という二つの意味概念を形成する。更に、そこでのメトニミー的な認識の拡張によって、そうした二つの意味概念から生まれる下部的認識としての多義的意味認識に、前者からは「仕事、事業、業務、実務、商業」、後者からは「介入・介在」、「用件・核心」、「本分・天分」、「権利・義務」、「運動・行為」、「事態・状況」、「問題・厄介事」という意味認識が形成されることを明らかにした。

そして、多義語の語義を中心的な共通認識からのメタファー的派生として、またそれぞれの各語義の派生関係をメトニミー的拡張として捉えることは、Langacker (1987) で提示された「ネットワーク・モデル」の不備を補完し、語の多義的意味認識の原理を有効に説明付けるものであることを実証した<sup>8)</sup>。

## 注

- 1) businessの広範な意味が中心的な共通認識によって有契付けられた多義であることは、既存の辞書の見出し項目を見れば自ずと実証されよう。仮にbusinessの広範な意味認識に意味



的関連性が認められないとしたら、これら複数個の意味認識を持つbusinessをそれぞれ同音異義語として別見出しとすべきである。しかし現実には決してそのような見出しにはなっていない。このことは、辞書記述において、その語義間の意味の関連性は無視されながらも、businessの複数の意味認識が決して同音意義によるものではなく、多義的性質によってなされていることを無意識に認めていることを如実に物語っている。

- 2) businessの意味記述については、今回、英々辞典では *THE AMERICAN HERITAGE DICTIONARY* (1992)、*THE NEW SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY* (1993)、*Cambridge International Dictionary of English* (1995)、*Collins Cobuild English Dictionary 2nd Edt.* (1995)、*Longman Dictionary of Contemporary English 3rd Edt.* (1995)、*RANDOM HOUSE WEBSTER'S UNABRIDGED DICTIONARY 2nd Edt.* (1997)、*COLLINS ENGLISH DICTIONARY MILLENNIUM Edt.* (1998)、*The New Oxford Dictionary of English* (1998)、*Oxford Advanced Learner's Dictionary 6th Edt.* (2000) における意味記述を、英和辞典では『新英和大辞典 第5版』(研究社, 1980)、『プログレッシブ英和中辞典』(小学館, 1980)、『リーダーズ英和辞典』(研究社, 1984)、『ラーナーズプログレッシブ英和辞典』(小学館, 1992)、『ジーニアス英和辞典』(大修館書店, 1994)、『講談社英和中辞典』(講談社, 1994)、『岩波新英和辞典』(岩波書店, 1994)、『新英和中辞典』(研究社, 1994)、『新グローバル英和辞典』(三省堂, 1995)、『新クラウン英和辞典 第5版』(三省堂, 1995)、『カレッジライトハウス英和辞典』(研究社, 1995)、『デイリーコンサイス英和辞典 第6版』(三省堂, 1996)、『ライトハウス英和辞典』(研究社, 1997)、『スーパーアンカー英和辞典』(学習研究社, 1997)、『ニュープロシード英和辞典』(ベネッセコーポレーション, 1997)、『キャンパス英和辞典』(講談社, 1998)、『エクシード英和辞典』(三省堂, 1998)、『カレッジクラウン英和辞典』(三省堂, 1998)、『ニューサンライズ英和辞典』(旺文社, 1998)、『旺文社英和中辞典』(旺文社, 1999)、『ロイヤル英和辞典』(旺文社, 1999)、『アクティブジーニアス英和辞典』(大修館書店, 1999)、『グランドセンチュリー英和辞典』(三省堂, 2000)、『パーソナル英和辞典』(学習研究社, 2000)、『新グローバル英和辞典 第2版』(三省堂, 2001)、『グランドコンサイス英和辞典』(三省堂, 2001)、『コンサイス英和辞典 第13版』(三省堂, 2001)、『ジーニアス大英和辞典』(大修館書店, 2001)、『ポケットプログレッシブ英和辞典』(小学館, 2001)、『カラーボックス英和辞典』(講談社, 2001)、『新英和大辞典 第6版』(研究社, 2002)、『ピーコン英和辞典』(三省堂, 2002)、『ウィズダム英和辞典』(三省堂, 2003) における意味記述を比較検討した。

- 3) 構造主義的な立場に立てば、語の意味は、意義素と呼ばれる有限個の意味要素の組み合わせによって記述することが可能であるという前提に立ち、用例の背後にある最大公約数的な

意味を意義素の束として取り出し、分析することに研究の主眼が置かれる。一方、認知言語学の立場に立てば、語の最大公約数的な意味を取り出し、それを意義素の束で記述することは有効でないとし、多義を構成する語義間の関係を“動機付けられた関係のネットワーク”として捉え、語義間の関係を図式の連鎖図で捉えようとする点にその特色がある。Taylor (1995: 83-84) も指摘するように、構造主義言語学と認知言語学は、言語形式には他からの影響を受けることなく現実の事物の意味があるという考えを否定し、意味は文脈に依存するという考え点で意見の一致を見るが、構造主義言語学における文脈とは言語体系内における記号間の統合的、系列的な関係を意味する。一方認知言語学における文脈とは言語体系の外にあるものである。その点で、両者のアプローチは対照的なものとなる。本稿での論証は、構造主義言語学で取られたような、用例の背後に最大公約数的な共通の意味認識を「中心的概念」という形で認め、それを基に認知的な手法で語義間の意味の連関性を明らかにすることを目指し、構造主義や認知主義といった学問の枠組みを超えた、一種、普遍的な意味分析の方法論のあり方を探るものである。

- 4) しかしながら、この考えに対しては、次の二点で大きな批判を免れ得ない。第一にこの立場では、多義性を犠牲して同音異義を広義に解釈するため、個々別々の意味の各々に不変の意味的価値が付与される可能性を除外してしまう。第二に先の結果から、語の多義性は恣意的で動機付けや有契性のない現象ということになり、その研究法は理論的にも記述的にもアプローチの難しいものとなってしまふ。同時にそれは、この立場に立って多義を扱うことの大きな欠点を露呈している。
- 5) ただしCruse (1986: 52-53) は、メトニミーによる意味拡張を多義的であるとは見なさず、語の異なる側面が“文脈に調整されたもの (contextual modulation)” に過ぎないという見解を示している。しかしながら、語彙の中には、単一概念構造の構成要素を前景化することによって生じるメタファー、メトニミー的拡張という現象が多く見られる。本稿で扱うbusinessの広範な意味拡張もまさにその例にもれない。このことは、文脈的調整は多義性の種を含んだものとして考える方が妥当であることを示している。
- 6) この術語はDirven R. et al. (1982) から採ったものである。これは、複雑な意味構造を持つ単一の語が、異なった場面や状況で使用されることによって、意味の一部分が際立つ現象を表している。このことについて詳しくは、Dirven R. et al. (1982) や Taylor (1995: 90) を参照のこと。
- 7) これと同様の指摘は、瀬戸 (1997<sup>b</sup>: 73) にも見られる。ただし、Langacker (1995: 27-29) においては、多義の意味派生関係に一部メトニミー的要因を認める記述が見られる。
- 8) この主張は、おおよそあらゆる語の多義的意味認識の現象を説明付ける際にも有効である

と思われる。このことについては、松中(2000<sup>a</sup>, 2000<sup>b</sup>, 2001<sup>a</sup>, 2001<sup>b</sup>, 2001<sup>c</sup>, 2002<sup>a</sup>, 2002<sup>b</sup>, 2002<sup>c</sup>, 2002<sup>d</sup>, 2003<sup>a</sup>, 2003<sup>b</sup>)で詳しく各々の語を対象に、その多義的意味認識の原理を実証しているので、そちらを参照のこと。

\*本論文は、敬愛大学経済文化研究所より、2002年度個人研究助成金(研究課題「英語多義語の認知的研究：英単語の多義的意味認識の認知プロセスと意味理解の原理の解明」)の交付を受けた研究成果によるものである。

## 参考文献

- Austin, J.L. 1961. *Philisophical Papers*. Urmson, J.O. and Warnock, G.J. ed. Oxford : Clarendon Press.
- Bierwisch, M. 1983. Semantische und konzeptuelle Repräsentation lexikalischer Einheiten. In Rüzicka, R. and Motsch, W. ed. *Untersuchungen zur Semantik*. pp. 61-99. Berlin : Akademie-Verlag.
- Bierwisch, M. and Schreuder, R. 1992. From concepts to lexical items. In *Cognition* 42-1-3, pp. 23-60. The Netherlands : Elsevier science publishers.
- Bolinger, D. 1965. The atomization of meaning. In *Language* 41-4, pp. 555-573. Baltimore : Waverly Press, Inc.
- Brown, L. 1993. *The New Shorter Oxford English Dictionary*. Oxford : Clarendon Press.
- Brugman, C. 1988. *Story of Over*. New York : Garland.
- Cruse, D.A. 1986. *Lexical Semantics*. Cambridge, New York : Cambridge University Press.
- Cruse, D.A. 1990. Prototype theory and lexical semantics. In Tsohatzidis ed. *Meanings and Prototypes*. pp. 382-402. London : Routledge.
- Dirven, R. et al. 1982. *The Scene of Linguistic Action and its Perspectivization by Speak, Talk, Say, and Tell*. Amsterdam : John Benjamins.
- Geeraerts, D. 1985. Cognitive restrictions on the structure of semantic change. In Fisiak, J. ed. *Historical Semantics*. pp. 127-153. Berlin, New York : Mouton Publishers.
- Haiman, J. 1980. Dictionaries and encyclopaedias. In *Lingua* 50-4, pp. 329-357. Amsterdam : North-Holland Publishing Company.
- Jackendoff, R. 1983. *Semantics and Cognition*. Cambridge, Mass. : MIT Press.
- Jackendoff, R. 1990. *Semantic Structures*. Cambridge, Mass. : MIT Press.

- Jakobson, R. 1936. Beitrag zur allgemeinen Kasuslehre : Gesamtbedeutungen der russischen Kasus. In *Selected Writings ii*, pp. 23-71. The Hague : Mouton.
- Kempson, R. 1977. *Semantic Theory*. Cambridge, New York : Cambridge University Press.
- 国広哲弥. 1967. 『構造的意味論』三省堂.
- 国広哲弥. 1970. 『意味の諸相』三省堂.
- 国広哲弥. 1998. 「英語多義語の認知意味論的分析」『神奈川大学創立七〇周年記念論文集』pp. 265-284. 神奈川大学創立七〇周年記念論文集編集発行実行委員会.
- Lakoff, G. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago : University of Chicago Press.
- Langacker, R. 1987. *Foundations of Cognitive Grammar : Theoretical Prerequisites*. Stanford : Stanford University Press.
- Langacker, R. 1988<sup>a</sup>. A View of Linguistic Semantics. In Brygida, R.O. ed. *Topics in Cognitive Linguistics*. pp. 49-90. Amsterdam : John Benjamins.
- Langacker, R. 1988<sup>b</sup>. A Usage-Based Model. In Brygida, R.O. ed. *Topics in Cognitive Linguistics*. pp. 127-161. Amsterdam : John Benjamins.
- Langacker, R. 1990. *Concept, Image, and Symbol : The Cognitive Basis of Grammar*. Berlin, New York : Mouton de Gruyter.
- Langacker, R. 1995. Raising and Transparency. In *Language71-1*, pp. 1-62. Baltimore : Waverly Press, Inc.
- Leech, G. 1974. *Semantics*. Harmondsworth : Penguin.
- Lehre, A. 1990. Prototype theory and its implications for lexical analysis. In Tsohatzidis, S.L. ed. *Meanings and Prototypes*. pp. 368-381. London : Routledge.
- Lindner, J. 1981. *A lexico-semantic analysis of English verb particle constructions with out and up*. Bloomington : Indiana University Linguistics Club.
- Lyons, J. 1977. *Semantics vol.1/vol.2*. Cambridge, New York : Cambridge University Press.
- 松中完二. 2000<sup>a</sup>. 「意味現象の捉え方－先行研究の紹介と整理－」『ICU比較文化』第32号、pp. 47-74. 国際基督教大学比較文化研究会.
- 松中完二. 2000<sup>b</sup>. 「edgeの概念構造と多義的意味認識について－認知的視点から－」『英語語法文法研究』第7号、pp. 135-150. 英語語法文法学会.
- 松中完二. 2001<sup>a</sup>. 「throughの概念構造についての認知意味論的考察－その多義構造とメタファー的意味認識について－」『JELS』第18号、pp. 121-130. 日本英語学会.
- 松中完二. 2001<sup>b</sup>. 「構造主義言語学における意味研究の黎明」『ICU比較文化』第33号、pp. 65-100. 国際基督教大学比較文化研究会.

- 松中完二. 2001<sup>c</sup>. 「forgetの概念認識と多義的使用について－認知的視点から－」『英語表現研究』第18号、pp. 10-18. 日本英語表現学会.
- 松中完二. 2002<sup>a</sup>. 「developの原義と多義的意味派生について－原義の設定と多義的有契性についての認知的分析－」『JELS』第19号、pp. 206-215. 日本英語学会.
- 松中完二. 2002<sup>b</sup>. 「現代の多義語の構造」飛田良文・佐藤武義共編『現代日本語講座 第4巻 語彙』pp. 129-151. 明治書院.
- 松中完二. 2002<sup>c</sup>. 「認知言語学における意味研究の黎明」『ICU比較文化』第34号、pp. 123-155. 国際基督教大学比較文化研究会.
- 松中完二. 2002<sup>d</sup>. 「gameの概念カテゴリーと多義性についての認知的考察」『日本認知言語学会論文集』第2巻、pp. 23-33. 日本認知言語学会.
- 松中完二. 2003<sup>a</sup>. 「英和辞書の意味記述と訳語の隙間－goodの訳例に見る意味認識と訳語生成の創造的側面について－」『ICU比較文化』第35号、pp. 127-145. 国際基督教大学比較文化研究会.
- 松中完二. 2003<sup>b</sup>. 「翻訳における意味認識と訳語生成についての認知論的考察」『敬愛大学 研究論集』第64号、(印刷中). 敬愛大学経済学会.
- Miller, G. 1978. Semantic relations among words. In Halle, M., Bresnan, B. and Miller, G. eds. *Linguistic theory and psychological reality*. pp. 60-118. Cambridge, Mass : The MIT Press.
- 初山洋介. 1997. 「慣用句の体系的分類－隠喩・換喩・提喩に基づく慣用的意味の成立を中心に－」『名古屋大学国語国文学』第80号、pp. 29-43. 名古屋大学国語国文学会.
- 初山洋介. 2001. 「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」山梨正明編『認知言語学論考』No.1. pp. 29-58. ひつじ書房.
- Norving, P. and Lakoff, G. 1987. Taking : A Study in Lexical Network Theory. In *BLS 13*, pp. 195-206. Berkeley : Berkeley Linguistic Society, Inc.
- Palermo, D. 1982. Theoretical issues in semantic development. In Kuczaj, S. ed. *Language development 1 : syntax and semantics*. pp. 335-364. Hillsdale, NJ : Lawrence Earlbaum Associates.
- Rosch, E. 1973. On the internal structure of perceptual and semantic categories. In Moore, T. ed. *Cognitive development and the acquisition of language*. pp. 111-144. New York : Academic Press.
- Ruhl, C. 1989. *On Monosemy : A Study in Linguistic Semantics*. Albany, New York : State University of New York Press.
- Sampson, G. 1980. *Making Sense*. London, New York : Oxford University Press.

- Searle, J. 1983. *Intentionality : An Essay in the Philosophy of Mind*. Cambridge, New York : Cambridge University Press.
- 瀬戸賢一. 1997<sup>a</sup>. 『認識のレトリック』海鳴社.
- 瀬戸賢一. 1997<sup>b</sup>. 「拡大するメトニミーー認知言語学の問題点ー」 *PROCEEDINGS OF THE TWENTY-FIRST ANNUAL MEETING*. pp. 67-77. 関西言語学会.
- 小学館ランダムハウス英和大辞典 第2版編集委員会編. 1994. 『ランダムハウス英和大辞典 第2版』小学館.
- 田中茂範. 1987. 『基本動詞の意味論 コアとプロトタイプ』三友社.
- 田中茂範. 1990. 『認知意味論 英語動詞の多義の構造』三友社.
- Taylor, J. 1995. *Linguistic Categorization 2nd ed.* London, New York : Oxford University Press.
- Ullmann, S. 1951<sup>a</sup>. *Words and their Use*. London : Muller.
- Ullmann, S. 1951<sup>b</sup>. *The principles of Semantics*. Glasgow : Jackson.
- Ullmann, S. 1962. *Semantics : An Introduction to the Science of Meaning*. Oxford : Basil Blackwell & Mott Ltd.
- Wunderlich, D. 1991. How do prepositional phrases fit into compositional syntax and semantics? In *Linguistics 29-4*, pp. 591-621. Berlin, New York : Mouton de Gruyter.
- Zipf, G. K. 1949. *Human behavior and the principle of least effort*. Cambridge : Addison-Wesley.